



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/841/



エリア

台北市

テーマ

人権

ジェンダー

LGBT

5 ジェンダー平等を
実現しよう



台湾LGBT プライドパレード

東アジア最大のプライドパレードを 体験しよう

性的マイノリティの文化を讃え、人権を尊重する「プライドパレード」は1970年にアメリカで始まり、その後、全世界に広がっていきました。台湾各地(台中、台南、高雄、花蓮など)でも毎年、行われていますが、東アジア最大規模といわれるのは毎年10月の最終土曜日に台北市内で開催される「台湾同志遊行」です。台湾各地はもちろん、日本や中国、韓国などの近隣諸国、遠く欧米からも参加者があり、とても賑やかです。性の多様性のシンボルである虹色の旗やグッズを手に持ち、思い思いの装いで歩く人たちの列に加わってみましょう。また、毎年10月はレインボー月間で、台北レインボーフェスティバル(台北国際彩虹文化節)も開催され、映画祭や音楽祭など、街中で様々な関連イベントを楽しめます。

学 び の ポ イ ン ト

1.

なぜこんな大規模に成長したの？

003年に台北で初めてパレードが開催された時、参加者はわずか2000名あまりでしたが、2019年には5月に同性婚が認められたこともあり、約20万人の参加となりました。このような短期間での急激な増加を可能にしたのは、同志団体の粘り強い活動は言うまでもなく、国・地方自治体の取り組み、法の整備、教育・医療・福祉現場・企業での取り組み、メディアの報道、学術研究成果の発表・出版、大学サークルの活動、文化的サポート(文学、映画、TV、音楽、美術、ファッション、サブカルチャー)など、同志をサポートする全方位的な動きが推進されてきた結果、人々の意識が大きく変わったからでしょう。現在では異性愛者の参加も多く、小さな子供を連れた若い夫婦も目立ちます。同志の子供を持つ親たちのグループもあります。また、毎年パレードの先頭を堂々と行くのは、車椅子に乗った障害者の同志グループです。

2.

台北のパレードの特徴は？

性的マイノリティのためのパレードですが、他の人権テーマについても関心が払われていることが大きな特徴です。それは、台湾の同志運動が民主化運動の一環としての人権運動として発展してきたからでしょう。台湾では、日本統治時代や戦後の白色テロの経験を通して、人権は主体的な行動を通して獲得するものと認識されています。同志運動も例外でなく、人権を求める社会運動として発展してきました。その過程で、他の社会運動との連帯が生まれ、毎年、パレードには先住民の自治運動、移民労働者運動、労働運動、環境保護運動、反原発運動、障害者運動、動物愛護運動などの関係者も参加し、同志を支援する力強いメッセージを発信しています。台湾プライドパレードは、単なる「お祭り」ではなく、一年に一度、個人的な性の課題は社会的な課題であると認識した上で、複数の問題系を貫く人権意識を共有し、確認する日でもあるのです。